シラバス
【B－１】

平成２２年度研究科横断型教育プログラム（B タイプ）授業科目

担当部局名	防災研究所				授業の場所	吉田南総合館北棟1階共北12講義室	
授業科目名	防災考古学				講義担当者 所属・氏名	防災研究所・釜井俊孝	
対象	修士 博士後期 専門職	コマ数	6コマ	開講 日時	6月1日、2日、3日、8日、9日、 10日の18時半～20時	授業形態	講義

〔授業の概要・目的〕

防災考古学は、遺跡の解釈に重点を置いた従来の災害考古学的研究とは、データ(試料や微地形)の自然科学的分析と人文学的解釈の統合を試みる点で異なっている。この講義では、都城の建設や堤防による河道固定など、土地利用の利便さを求めた人為的地形改変と周辺環境変化の関わりについて防災考古学的なケーススタディを紹介する。具体的には、序論＋巨大古墳の変形と都市直下地震(2 回)、湖底遺跡の世界(1 回)、山地の荒廃と天井川(1 回)、歴史都市の建設と災害(1 回)、海外の事例(1 回)の内容で行う。

【研究科横断型教育の概要・目的】
開発，災害，環境の保全は互いに矛盾する課題であり，単純な解は存在しそうもない。そこで視点を変え、「天変地異」に遭遇した人々が自然知的経験技術をもって災害を防ぎ、また自然との折り合いを見出そうと努力した歴史を収集し、災害の発生から復旧あるいは生活空間の放棄に至る短期の応答過程と、地形変化をもたらすような中・長期の地域的応答に関する知見を統合して、「防災景観・環境変遷史」の構成を試みる。歴史が重層する近畿圏は、こうした「防災考古学」の構築に最も適したフィールドである。具体的には、都市の建設が周辺環境に及ぼした影響を主なターゲットとし、新たな文理工融合領域の発展について講義する。

〔授業計画と内容〕

第1回:6 月 1 日(火) 「序論　－災害の掘り下げ方－」
内容:地中海世界の事例を紹介しつつ、 Geo-hazard archaeology のスコープと現代的意義について議論する。

第2回:6 月 2 日(水) 「巨大古墳の変形と都市直下地震」
内容:畿内の古墳(今城塚古墳、西求女塚古墳、カズマヤマ古墳、赤土山古墳)に記録された地震災害の記録、古墳の構造と地すべり発生機構について紹介する。

第3回:6 月 3 日(木) 「“山の寺”と天井川」
内容:南山城、南近江に発達する天井川地形について、山地荒廃とその背景としての社会構造変化の視点から議論する。

第4回:6 月 8 日(火) 「歴史都市の建設と災害」
内容:大阪・京都における都市の発達と災害リスクについて、近世城郭遺構や治水遺跡と関連させつつ議論する。

第5回:6 月 9 日(水) 「湖底遺跡の世界」
内容:琵琶湖湖底遺跡(千軒遺跡)の調査結果とその意義(水際斜面災害リスクの認識)について紹介する。

第6回:6 月 10 日(木) 「モダニズムの受容と斜面災害」
内容:阪神間や首都圏を中心に、近代都市の建設がもたらした災害リスクについて紹介しつつ、“斜面防災都市”の今後について考える。

〔履修要件〕

・原則、6コマ全てに出席できる者を受講対象とする。ただし、証明を必要としない受講(アラカルト受講)の場合は、(1)コマ単位も可。

〔成績評価の方法・基準〕
・2単位相当の受講証明書を必要とする場合で、当科目で課題のレポートを作成する場合は、1科目（複数コマ全体）についてのレポートにより評価する。
〔教科書〕
（例：なし（適宜プリントを配付））
〔参考書等〕
（例：特になし）
〔その他〕